

## ⑦板橋宿不動通り商店街電線共同溝整備事業

受賞機関 東京都 板橋区

### <評価>

この事業は、歩行者と自転車の通行が多く、また国道17号からの抜け道となっている不動通りで、“商店街にふさわしく、かつ歩行者にとって安全安心な道路改修”を求めて行った電線共同溝事業。道路外に地上機器を設置するなど評価された。

### はじめに

本事業区間は、江戸時代に整備された五街道の一つである中山道の板橋宿にあり、現在は不動通り商店街として発展している。本事業は、東京23区でも事例の少ない歩道のない狭い道路かつ店舗数の多い商店街における事業であり、周囲に公共空間が少ない等の非常に厳しい条件のもとで、地上機器の設置場所を確保し、8年間の長期間に渡り商店街と板橋区が協働によりなし得た事業である。

### 事業の概要・成果

本事業区間は延長約400mの商店街である。整備にあたっては、地元関係者間の合意形成や課題解決へ向けた検討・調整・立案を一元化することを目的として、商店街と町会が中心となり、板橋宿不動通り道路改善協議会を発足させた。計24回開催された協議会では、電線共同溝整備事例の見学会・勉強会をはじめ、地上機器の設置場所や舗装構造等について、区の提案・情報を合わせたさまざまな議論がなされた。

本事業路線は幅員約8mの狭隘路線であるが、協議期間中に沿道に整備された公園や既存のポケットパーク等の道路外に地上機器を設置することで、歩行空間を最大限確保



板橋宿不動通り商店街（整備後）

することができた。設置にあたっては、企業者の占用手続きや管理上の課題があったが、協議を重ねることで解決した。

車道部の舗装は、ヒートアイランド対策として、商店街が打ち水に取り組むことを約束したうえで、保水機能を有する半たわみ性舗装とした。

### おわりに

商店街での電線共同溝事業は、板橋区にとって初の試みであったが、商店街・町会と板橋区の職員が密接に協議し、多くの課題を乗り越えて完成に至った。整備後の事業路線は、防災性が向上し、安心して歩ける歩行空間を確保することで商店街が活性化し、街の賑わいや魅力を創出している。

## ⑧道路を賢く使う取組み ～海老名JCTの渋滞解消～

受賞機関 中日本高速道路株式会社 東京支社  
保安・サービス事業部交通技術チーム  
厚木工事事務所  
横浜保全サービスセンター

### <評価>

この事業は、渋滞の顕著な海老名JCT外回りで、道路幅員を変更せず車線幅や路肩幅を狭めて渋滞を解消し、渋滞に関連する事故も削減させた事業。関係機関と短期間で協議・交渉して施工し、低廉なコストで早期に渋滞を解消した成果が評価された。

### はじめに

東名と圏央道を結ぶ海老名JCTにおける渋滞対策として、東名から圏央道外回り（中央道方面）に向かうランプウェイにおいて、現況の1車線から道路幅員を変更せず、車線幅や路肩幅を狭めることで2車線運用を図るとともに、圏央道本線部に安全でスムーズに合流できるよう、圏央道本線（外回り）の一部を2車線から1車線へ変更した。

### 事業の概要・成果

海老名JCT外回りの渋滞要因が、ランプ合流部の速度低下、交通容量不足及び上り勾配部での速度低下であることから、ランプ部を暫定（新東名全線開通まで）2車線化することにより、速度低下を抑制し、交通容量を向上させる対策を実施した。またランプ部を2車線化した場合、本線合流部が新たなボトルネックとならないよう圏央道本線部を1車線化し、効率的な合流方法を確保した。結果、運用開始後においては東北道まで接続した影響もあり、外回りにおいて約5,000台/日もの交通量が増加したにもかかわらず、これまで延べ100h/月以上も発生していた交通集中



海老名JCT外回り（東名⇒圏央道八王子方面）

による渋滞が、完全に解消した。

そして同時に事故対策も実施したこともあり、事故発生件数も大幅に減少し、渋滞・事故共に大きな成果が得られた。

### おわりに

今回、現況の道路構造を有効的かつ時限的に活用した「道路を賢く使う」対策の好事例とも考えている。今後さらに安全性の検証などを進めていきたい。

賛助会員 日本道路㈱